

令和4年度 秦野市食育推進委員会 会議録

日 時	令和4年10月27日（木） 午後7時から8時10分
場 所	秦野市保健福祉センター 3階 第4会議室
出席委員 12名	◎会長 森 真理（東海大学） ○副会長 石川 奈穂（平塚保健福祉事務所秦野センター） ●委員（10名、以下順不同、敬称略） 秦野市農業協同組合 山岸 一章 秦野伊勢原食品衛生協会 神戸 和彦 秦野伊勢原医師会 内藤 剛彦 秦野伊勢原歯科医師会 平野 壯明 秦野市中学校長会 田中 理絵子 秦野市小学校長会 有馬 利一 秦野市小学校栄養士 白土 菜摘 秦野市学校保健会 養護教諭 関野 亜希子 市民委員 石丸 昌義 市民委員 志村 ひろみ
欠席委員 3名	秦野市食生活改善推進団体 小澤 美代 秦野商工会議所 秋山 純夫 秦野市立幼稚園・こども園園長会 古谷 ゆきの
事務局	秦野市こども健康部 梶山部長 こども家庭支援課 池田専任技幹(兼)課長代理 こども家庭支援課 山口主任栄養士
会議次第	1 開会（こども家庭支援課 池田専任技幹(兼)課長代理） 2 委嘱状の交付 3 あいさつ（こども健康部 梶山部長） 4 委員・事務局自己紹介 5 正副会長選任 6 議事（進行：森会長） (1) 秦野市食育推進委員会の趣旨説明（食育推進委員会規則に基づき、事務局から説明） (2) 第3次はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）の進行管理について（取組状況調査表に基づき、事務局から説明） 《委員からのご意見、ご質問》
内藤委員	基本目標1（1）④食に関する指導の充実について 教育指導課及び学校教育課の指標「食に関する指導計画の作成」では、計画表を作成することが指標となっており、取組内容についての評価となっていないのではないか。計画表を作成したこと

森会長	が 100%で、施策に対しての整合性がないのではないかと。
田中委員	教育委員会で年間計画を立てていると思うが。
事務局	各学校で計画を作成し、各校で評価している。食育指導計画を持ち、食育担当者会に行くことになっており、そこで共有されているのではないかと。各校で内容には違いがある。計画の取り組み状況など情報を各校で共有できたらよい。
山岸委員	基本目標 1 (3) ⑫生産者の顔が見える食育の推進について農業振興課及び学校教育課の目標値について、最終の目標値は 50%だと思うが、令和 4 年・6 年の数値が記載されていない。どのくらいの数値を考えているのか。市長が 50%を目標にと言っているが、令和 7 年までに 50%を目指すということによいか。中学校給食では重量ベースだと 50%程度使用している。
森会長	秦野市は印象としては、地場産物の使用量が多い。冷凍野菜を使う方が安いと、教育委員会が生の野菜の使用を勧めている。地域の協力があれば達成できるのではないかと。
事務局	数値については担当課に確認して回答する。
石川委員	基本目標 3 (2) ⑦再掲 幼稚園、認定こども園、小学校、中学校の農業体験の促進について 主な内容にある、食べ残しを削減する取り組みの実施については、再掲元には掲載がないが、どのような体験となるか。食べ残しを考える授業はとてもよいと考えるが、どのくらい食品ロスに対する授業が盛り込まれているのか。
森会長	給食センターでの食べ残しについて課題となっているが、学校では食べ残しについて把握する取組があるか。
田中委員	職員が毎食の残食量は確認していないが、給食センターでは確認しており、メニューの改善に使われていると聞いている。給食センターから残食量についての情報は戻っていないが、学校と給食センターとで繋がりができれば、今後の指導に生かせるのではないかと。食品ロスに関しては、家庭科の授業で実施している。
森会長	中学校給食は開始したばかりであり、今は配膳等に慣れることからと聞いている。今後、情報の共有できれば生かせるのではないかと。

白土委員	小学校については、各主食・主菜・副菜と残食についてすべて計量し、欠席者等も考慮して残食量を％でも出し、保健所に報告している。残量の多いものは他校の栄養士とも共有しながら改善に努めている。小学校では家庭科のほか、給食の指導として資料を作成し、担任の先生が児童たちに給食の時間に伝えている。
森会長	給食の残食は日本全国の課題とはなっているが、記載のある実施状況以外にも個々に取り組みがある。このような取り組みも取組状況にも盛り込まれているとよい。
	(3) その他 《委員からのご意見、ご質問》
内藤委員	各部署がよく取り組まれているが、乳児から大人まで、対象者の幅が広いため、5年間の中で、今年はこれと優先を決めて取り組むと、現場も市民もわかりやすいのではないかと。明確に目標がひとつあると一般の人はわかりやすい。取組内容も読んだだけでは理解しにくい。各部署と考えていただければと思う。
森会長	国や県も5年間で計画し評価しているが、保護者に対しても、広報に載せるなどうまく公表していくことが必要か。
事務局	全庁的に各課が担当する事業において目標を持って進めている状況である。その中から取り上げて重点的にというのも難しい点もある。庁内でも会議があるため、このような意見があったということも共有し、検討させていただきたい。
森会長	成果がよかったものでもよいので、市民にもっとアピールすることも必要。給食の頑張りも保護者に届いていないものもある。理解してもらい、一緒に盛り上げていけるとよい。
平野委員	6月の食育月間、19日の食育の日は、市民に対してどのような啓発をしているのか。ボンチーヌとは犬か。
事務局	秦野市でも国と同様に食育を広めるために設けている。毎月19日にホームページにレシピを掲載しているほか、食育ののぼり旗を小学校や中学校、保育所などに配布しており、19日に合わせて旗を掲げている。ボンチーヌは秦野盆地の形からできた犬である。
平野委員	歯科医師会で開催している6月のフッ素塗布事業にも、ボンチーヌに来てもらいたい。

森会長 石丸委員	様々な形で食育を広めていけるとよい。 いかに何をやっているか届けるべきではないか。一人一台、子どもたちは学校から配布され、タブレットを持っている。市のホームページにアクセスするなどの環境を整えることができないか。内容も小学生向けに分かりやすく見られるものなど。食育に限らず、市の取り組みをタブレットで見られるような、市が発信し、子どもに受信してもらう、アクセスできる環境が作れるとよい。そうすると、子どもだけでなく、親も見ることができる。
森会長	市のことを好きになってもらう、理解してもらう方向性ができる とよい。
事務局	市民の皆様に届いていないのであれば、PRの方法も考えていき たい。一方で、ボンチーナについてはこども園等に帯同して、食 育が印象的に残るように動いてはいる。タブレットなどを活用し て印象に残るようなPRができればよい。
田中委員	タブレットは授業でも使っており、市のホームページや給食の動 画にアクセスは可能なことだと思う。
有馬委員	見るきっかけを作ることが大切。広報はだのなどを介してPRす るのもよい。
事務局	うまく連携し、研究していければと思う。
森委員	それでは、これで議事は終了します。
事務局	以上をもちまして、食育推進委員会を閉会いたします。どうもあり がとうございました。 ―― 以上 ――

議事録署名人

会 長 _____

委 員 _____